

## 定期報告

2011年6月2日(木)

天候:晴れ 温度:内21°C 外10°C 湿度:52% 風:微風

放射線量:0.10  $\mu$  Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝:ご飯、ウインナー、ベーコンエッグ、みそ汁、レタス

昼:かつ弁当、りんごジュース(第9次支援隊4名、南部病院チーム5名計17名で昼食)

氏名:原田 生知(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

5:00 起床

昨夜は村岡医師チーム、記念病院チーム、町田アンド町田商会チーム全員で食事。  
遅くまで話に花が咲いた。起床後前日のレポート作成。

6:30 朝食

スタッフ全員でなごやかに過ごす。

7:50 朝ミーティング

天候が回復したため、今回の大植入り後初の散歩ミーティングを実施。

記念病院チームと合同で本日のスケジュールを確認。

散歩最後に足に自信のある三上総務の挑戦を受け、大植高校へ至る坂道で徒競争を実施した。陸上経験者の苦米地理学療法士も参加を表明。普段から走っている私はお二人に20mほどのハンデをつけてスタート。二人とも早い！結局ハンデのまま差を詰めることができず、最後に三上総務の突き離しにもあい、あえなく最下位でゴール。

8:30 救護所にて OTC 仕分け

新たに判明した保健室戸棚内に保管されていた OTC を取り出し、仕分けを実施。

8:45 救護所カンファレンス

愛知県保健師チーム、避難所本部三浦さんを交え、申し送り事項及び本日のスケジュールを確認。特記事項なし。終了後、記念病院理学療法士チームと保健師チームで避難所内の情報交換が続いた。

9:00 午前診療開始

本日は調剤の合間を見ながら五戸薬剤師に薬局業務申し送り事項をまとめてもらっ

た。

私は避難所本部佐々木さん、三浦さんに大槌高校救護所閉鎖後の避難所在住者の通院手段について相談した。大槌高校は小高い丘の上にあり、最寄のバス停までは急な坂道を歩いて片道 15 分ほど必要だ。足腰の弱い一人暮らしの高齢者にとっては交通手段が無いに等しい。

自家用車が利用できない方はタクシーを利用しているとのこと。避難所本部でも救護所閉鎖後の医療体制に不安があるとのことで、城山体育館避難所では閉鎖後に日赤の巡回診療が行われていることを情報提供するとともに、町役場等行政機関に働きかけ、通院にかかるタクシー代を公費負担してもらえないか提案した。

佐々木さんが早速町の災害対策本部に連絡を取り、日赤巡回診療が大槌高校でも実施可能かどうか検討してもらおうよう手配してくれた。

震災後、大槌では町長不在ということもあり、行政機能も十分回復していないようだ。災害対策本部でも大槌高校救護所閉鎖とその後の避難所住民の医療サポートについて情報を把握出来ていないようであった。本日開催される会議で検討後、回答が来るとのことである。

本日午前も患者数は少ない。常連の左手義手の SK さん受診。SK さんは前回の坂本チームからの申し送りで毎日薬剤師が肘、肩に消炎鎮痛剤塗布を介助している患者さん。少し気難しい方で坂本チームの帰還を残念がっていたが村岡医師と我満看護師の気さくなトークにすっかり打ち解け、笑顔も見せるようになった。

村岡医師、我満看護師との別れを惜しみつつ村岡医師の注射と我満看護師による外用塗布介助を受け、最後に記念撮影をして嬉しそうに帰って行った。心優しい対応と笑顔はいろんな人を勇気づけ変化をもたらす。

#### 11:00 南部病院 小笠原医師チーム到着

村岡医師との申し送り実施。同行の看護師さんより当社の JMAT 活動報告が非常に参考になりましたとお褒めの言葉を頂いた。

#### 11:40 西村チーム到着

救護所薬局引継ぎを五戸薬剤師にお願いする。今回は南部病院 5 名、西村チーム 4 名と大所帯。救護所内がしばしにぎわった。我満看護師も 1 人で手際よく南部病院看護師チームに申し送った。

#### 12:00 昼食

物理教室にて吉里吉里のお弁当屋さんから仕入れたとんかつ弁当を全員で頂いた。南部病院チームよりフルーツケーキの差し入れがあった。

村岡医師チームは一足先に帰路に着いた。村岡医師より当社活動にお褒めの言葉と今後の活動に激励を頂いた。村岡先生、我満さん本当にお疲れ様でした。

昼食後、弊社総務チームは2班に分かれて学校内と大槌町概要について引き継ぎ。  
私は南部病院看護師チームを愛知県保健師チームへ紹介した。

出発前のあわただしい中、避難所本部佐々木さん、三浦さん、小林さんに長谷川理学療法士とともにお別れの挨拶をした。短い期間だったが炊き出しの差し入れなどいろいろ気を使っていただいた。記念撮影、握手。今後の避難所活動の無事と皆さんの健康を祈った。

#### 13:30 大槌高校出発

学校出口で三浦さん、小林さんと一緒に片足切断のSさんに会った。長谷川理学療法士による松葉杖調整で外出可能になり、わざわざ私たちを見送りに来てくれたとのこと。嬉しさもひとしお。記念撮影しつつ別れを惜しんだ。大槌高校避難所の皆さん本当にお世話になりました。皆さんお元気で、これからも出来る限りの支援をして行きたいと気を引き締めて大槌高校を出発した。

#### 18:00 本部着

**氏名:五戸 貴紀(薬剤師)**

体調:良好

行動日誌

#### 6:00 起床

6:45 朝食

7:30 申し送り事項作成

8:00 朝ミーティング 魚の腐った匂いが、鼻を刺激する。

8:30 救護所に戻り、残務整理を行う。

8:55 救護所内ミーティング

村岡医師から、食中毒の対処に関する説明が再度あった。

避難所内で食後に配膳回収せず食べ物をとり置きする方がいるようだ。

食中毒発生防止のため、保健師チームに、避難所巡回を念入りにするよう指示が出た。

6月11日で救護所が閉鎖されるため、お知らせの張り紙を掲示することになった。

9:00 午前診療開始

11:00 次回の医師会災害支援チームが到着した。

南部病院 小笠原博医師、沖田スミ子・佐々木御也子看護師、

弊社第9次派遣チームが救護所に顔を見せた。

引き継ぎ開始。

11:30 午前診療終了

12:00 昼食  
13:00 大槌高校出発  
18:00 弘前本部到着

#### 引き継ぎ事項

- ① 釜石カンファレンスは月、水、金曜日17:30～に変更になった。
- ② 大槌病院仮設診療所は6月1日の開院予定だったが、水道工事や診療所内での準備が遅れているため、6月21日に延期になった。
- ③ 救護所のベッドのシーツについて  
救護所のシーツがこれまで交換されていなかったため、6月1日に交換した。  
代えのシーツやふとんが他に無く、高校保健室の古川先生が自衛隊に連絡し、支援物資として入手することになった。
- ④ 保健師チームに患者情報提供  
保健師チームが、避難所巡回の際、受診者の情報があれば活動しやすいということで、6月1日から患者リストを作り提供することになった。  
リストは、朝の救護所カンファレンスで、保健師チームに提供する。
- ⑤ 救護所内のOTCについて  
OTCの中で、利用者が安全に使用できるものとできないものに仕分けすることに決定。  
使用できるもの:第3類は大槌高校に残す。  
使用できないもの:第1類、第2類、指定2類は薬剤師会に返却する。  
返却分は、6月4日(土)中田薬剤師が救護所まで、引き取りにくる。
- ⑥ 受診者数記録簿を作成した。
- ⑦ OS-1の使用期限に注意。OS-1は救護所内と避難所にそれぞれある。

#### 最後に:

今回の災害支援チームに参加したことで、仕事に対する考え方や薬剤師の災害支援での役割を改めて考え直す良い機会に恵まれた。

そして、避難者の心の中には、ものすごい胸が苦しくなるくらいに重いものがあるということを実地に来て初めて感じた。今後もできるだけ多くの方たちに、被災地の復興のために、行動を起こしていただきたいと思った。

氏名:三上 洋一(総務担当)

体調:良好

行動日誌

- 5:30 起床
- 6:30 朝食
- 8:00 散歩、朝のミーティング
- 9:00 午前の診療開始。
- 9:15 大槌町仮設役場、地域整備課訪問
- 9:30 上水道センター  
再度、役場地域整備課
- 10:45 吉里吉里地区、お弁当受取り
- 11:15 大槌高校到着
- 11:30 第9次支援隊、西村薬剤師、武長薬剤師、斉藤、土橋総務到着。  
葛西総務と土橋総務は、町内避難所等引継ぎへ。  
三上は斉藤総務へ大槌高校内引継ぎ。
- 12:15 総勢17名で昼食。
- 13:30 第8次支援隊業務終了し、帰路へ。
- 18:00 弘前本部到着

水道水は現在、飲用できる水であるとのこと。

プレハブ移転の大槌病院仮設診療所は、本体工事はほぼ完了しているが、配管設備で下水道のオイル漏れが見つかり、対応中とのことだった。

仮設役場で、高校、大学と弘前市富田町や桔梗野に住んでいたという、60歳半ばくらいのおばあさんと、ご友人と話をする機会があった。自宅の1階が浸水し、リフォームの手続きに役場にきたが、今日で3回目の訪問。もっと手続きを簡潔にして欲しいとのことだった。職員の人数が足りないのか、多くの方が待っていた。

弘前記念病院の理学療法士も支援隊チームに加わり、はじめて総務担当で参加したが、原田薬剤師、五戸薬剤師、葛西総務の手助けもあり、事故も無く戻ってくることが出来てよかった。短い期間だったが、色んなことを経験した。同じ釜の飯を食べて、一緒に寝泊りしチームとして働くことの素晴らしさを感じた。

直接、被災者の方々に支援は出来なかったが、総務としてチームのサポートが出来たことが嬉しかった。

氏名:葛西 豊誠(総務)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

7:00 朝食

8:00 散歩、ミーティング

9:00 診療開始

9:30 掃除後、三上総務と役場へ向かう

大槌町役場 地域整備課、大槌町上水道事業所、

11:30 西村チーム到着、引継ぎと記念撮影

12:00 昼食

12:20 土橋総務へ大槌町の道案内

13:30 大槌高校から出発

18:00 本部到着

大槌役場で、足の悪いお爺さんと、学生時代弘前にいたおばちゃんから手続きはどこへいけばいいんですか？と質問された。

案内し、私たちも下水担当の部署を探した。

役場の人からは、下水道担当は中学校ですとだけ云われ向かったしかし、中学校には遺体安置所の張り紙だけで誰もいなかった。

近くに上水道事業所があるので、訪問した。

3月末～4月上旬から水道は飲める水と確認した。

役場の地域整備課が下水道担当と聞き役場へ向かった。

役場へ到着、あらためて職員を見ると県外からの職員が多いことに気がついた。

地域整備課の工務班長へ下水の状況を聞いたところ、

オイルが混じっていたため、油マットを手配、2～3日で復旧したとのこと

自衛隊は排水路の瓦礫撤去と泥上げをして整備を進めていた。

被災地での現実を忘れることなく、

被災地の皆さんの為にできることを今後も考えて行きたい。